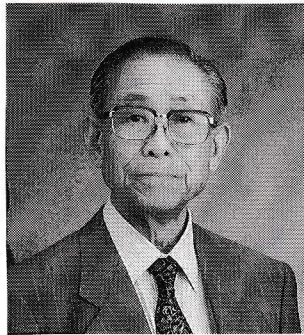


静中・静高 関東同窓会 報

静中・静高関東同窓会
会報 第42号
平成8年12月17日発行
編集人 上 杉 重 吉

想い出を辿って

43期 吉 江 誠 一



でも、この静中での一年間は妙に印象深く、自分の一生を踏み出すに当たっての大きな一歩となったことは間違いない。その追憶を辿れば次から次への想い出は到底紙面の許すところではないので、ここでは「静中」という語句から今でも直ちに頭をかすめる印象だけに留めさせて頂くこととする。

その第一は、私の人生の第一歩としての静中在学の意義である。

私の父親は旧陸軍の軍人で、その家庭に育った私としては親父の跡を継いで軍人になるのが当然であり、そのためには陸軍の幼年学校より士官学校への途を迎えるべきで、中学在学はいわばその受験準備期間ぐらいにしか思っていないな

何か「想い出の記」でもと言われたが、実は、私は四三期生を表すような大きな面をして一筆呈上できる身ではないのである。というのは、静中にはたった一年しか在校せず、一年生終了と同時にサヨナラして東京陸軍幼年学校に転校してしまったのだ。

った。両親もそう考えていたのであろう。静中合格が決まるや否や親父は私に、「東京の府立一中（後の日比谷高校）も受けて来い」というので、私は母と共に上京、母の実家に泊りながら日比谷の府立一中を受験した。既に静中に合格している安心感もあってか、自身自身の印象では静中よりも良い成績で合格できたと思っている。然し母は入校を辞退し私を連れて静岡に戻ったのであった。当時の恩師や同級生からは「せっかくの府立一中をなぜ投げ棄てて静中などに戻ったのか？」と残念そうに言われたが、私にとってはそれが当然のように別に気にもしなかったし、両親としても、それが次の陸軍の学校への受験準備の一段階と

思っていたのであろう。それから一年は厳しい鍛錬に明け暮れた。まず毎朝五時に起こされ、大雨でない限り弟（経雄、46期、平成六年暮死去）とともに

親父に連れられ駆け足で近くの浅間神社に参拝、その裏の賤機山まで登って帰ってからやと朝飯にありついたものであった。そのほか学問の面でも、国語・数学などについては、担任の先生の私宅に上って特別の課外教育を受けさせられた。この一年間の心身の鍛錬は、その後にとつての大きなプラスになったであろうことは間違いない。

第二の追憶は、当然恩師や級友のことになるが、級友については切りがないのでここでは恩師だけに留めておく。と言っても、なにせ七十余年も前のことであり、その氏名すら記憶から薄れている方が多いのはお許し願いたい。

入校とともに私は第一学年B組に編入され、どういう因縁か級長を命ぜられたが、組の担任は中野先生。渾名を「お嬢さん」といい実に穏やかな温和懇切な方であった。中学で初めて習い始めた英語には沢本先生がおられた。長らくインドに駐在されていたとかで、時にはその土産話をされたりしたが、私にとっては英語のレッスンよりもインドの話の方が面白くて熱心に聞いたものであった。そのほか剣道は岡先生、柔道は青木先生。尤も柔道では私は足を捻挫し

てしまい、その回復治療のため青木先生には長い間マッサージでもお世話になったのを覚えている。また図画は土佐坊（本名は忘れず）、軍事教練は小林武教官。その名をとって武さん・ブウさんと呼んでいた。このブウさんに鍛えられた不動の姿勢は、小生の終生の基本姿勢となったことは事実である。その他については割愛させて頂く。

第三の想い出は関東大震災である。大正十二年八月、第一学年の夏休みを終え、九月一日第二学期の始業式を済ませて家へ帰ってみると、母が庭先に七輪を出して昼飯の煮物をしているではないか。不審に思っ

てどうしたのか聞いてみると、つい今しがた大きな地震があり、家が潰れたり火事になると怖いのを外へ出てやっているのだという。こっちは夏休みが残り少し振りに級友たちとキャッキャやっていたので地震には気付かなかった。さあ、それから段々と情報が伝わって来ると、東京方面は大変な震災が発生しており、東海道線も三島から東はすっかり駄目とのこと。それから一兩日する内に東から来る列車には、家財を一杯抱えた避難者が溢れるように乗

って来たのを覚えていた。我が家でも東京に住んでいた母方の祖母や親戚たちの消息が判らず、万一の遭難を考え陰膳を供えながら無事を祈ったものであった。

第四に忘れられないのは、何といても我が野球部の甲子園での優勝であった。大正十五年八月、私はすでに東京陸軍幼年学校に転校してその三年生であり、夏休みで静岡に帰っていた。静岡の同級生は四年生で、國友(一壘)、田崎(三壘)、小河(外野)といったクラスメートを含めての野球部の活躍は日を追うに従って華々しいものになり、連日の新聞スポーツ欄を飛びつくように見るほか、ラジオもまだ無いこととて、近所の新聞配達所の店先に貼り出されるスコアの進展に胸躍らせて見入ったものであった。そしていよいよ優勝決定の瞬間には、溢れる感激の涙をどうすることも出来なかった。やがて優勝旗を掲げての凱旋の日には何をさて置いても静岡駅に駆けつけて心から彼らを迎えようと、オープンカーに掲げた優勝旗と校旗の後を追って、呉服町から七間町と、両側の歓迎の群集をかき分けながら静岡中夢中で随行したあの感激は、八十六歳の今でも忘れることは出来ない。

.....

七十数年も昔の身勝手な想い出で紙面を汚してしまったが、小生は陸士でも偶々同じ四三期生となり、後から転じて来た静岡同期の原崎俊三、小倉隼太、加藤金治といった諸君と共に陸軍軍人としての途を歩み、南支・南方などの戦線を駆け巡ったものの、武運に恵まれず華々しい死処を得ずしてこゝろ迄生き延びてしまつて誠に申し訳なく思っている。

たった一年間ではあったが、私の一生の意義深いスタートを切らせてもらった静岡に対し、更めて心から感激と感謝を捧げるとともに、静岡静高の今後益々のご発展と、岳南健児諸兄のご健勝ご多幸をお祈り申し上げる次第である。

●吉江誠一氏は明治44年1月生まれ。大正12年静岡中学(43期)。一年終了とともに陸軍幼年学校に転じ、陸士・陸大を卒業。南支方面軍参謀として従軍のち昭和15年から大本営参謀など要職を歴任し、終戦時陸軍中佐。

27年防衛庁に入り、北部方面幕僚長(札幌)・第13師団長(広島)等を経て、陸将として陸上幕僚長を任ぜられ、43年定年退職。勲二等瑞宝章を受賞。

現在、サンライズフォト会長。

郷土色を盛り込む

総会で世代を越えて懇談！

平成八年度関東同窓会総会及び懇親会は、七月十二日(金)午後六時半から新日本証券の大食堂で開かれた。

今回は第二十二回の総会、往復はがきで案内をした例年と異なり、六月に発送した会報四十一号で呼び掛けたが、日時不足のためか、出席者は百三十名と少々寂しかった。しかし元氣な顔・顔が揃い、校歌斉唱で開会した。

まず、大石巖関東同窓会会長(53期)が「三千余名の同窓生が力を合わせて、益々会の発展を」と挨拶。静岡からの来賓、杉田豊校長が母校の現状報告、静岡静高野球部OB会海野誠治郎会長(74期)



から創部百年の記念の年に当り、「百年史」刊行計画の紹介と協力要請がなされた。

次に議事に入り、平成七年度事業報告と決算及び監査報告、また



平成八年度事業計画と予算案が各可決された。

最長老の岩波信平顧問(42期)の首頭で声高らかに乾杯して懇親会に入る。

郷土色を盛り込んだ会場は正に和気藹々、酒飲みかわし歓談するなか、大学生達が先輩に就職などの指針を得ようとする真剣な姿もあった。

世代を越え、心なごむ懇談は二時間余、若い元応援団長のリードで、校歌を四番まで合唱し、再会を約して幕を閉じた。

(87期 薬科名雄)

同期会など

四九期

我々は中学卒業61周年を迎え、平成8年9月23日(お彼岸)に「もくせい会館」(静岡市鷹匠町)で総会を開いた。

出席者、21名。関東から石割敏夫、直原敏衛、篠田俊一、嶋三四郎、菅沼榮。仙台から山家久、和歌山から野崎巖、京都から相羽光、名古屋から松原春雄。地元から渥美文平、上田栄一、大石俊夫、大塚賢一、風間裕、杉山熊男、鈴木東作、戸塚喜久一、野村寿(旧姓桑原)、原木大、寺平誠介、山本敏。

その中で相羽君が咽頭摘出者ながら、補聴器を使い懸命にお話するのが大変印象的であった。

宴席は賑やかに自己紹介を兼ね一席ぶって談笑の渦の中で、時の移るのを忘れ欲を尽くした後、卒業60年を迎え、卒業50年の記念文集「白雪」の第2巻を編輯することを再確認した。

総会の世話役を毎年勤めていた、杉山佐一郎君がこの夏急逝され、哀悼の意を表した。

東京地区でも平成に入ってから江山秀明(平2年8月)、上杉一郎(平2・12)、矢崎宗男(平3・1)、安本久(平3・7)、浦野庸二(平3・11)、曾根重四郎(平4・9)、小林道雄(平4・12)、鈴木鑑(平6・12)、伊藤徹次郎(平7・5)、加藤馨(平8・2)と十名とお別れした。

然しながら平均余命からみて二十一世紀まで頑張る自信がある人が多い。

ここで「大正生まれ」のメロディーでもうたつてガンパロー。

大正生まれのオレ達は明治の親父に育てられ忠君愛国そのままだにお国のために働いてみんなの為に死んでゆきや日本男児の本懐と覚悟を決めていたなあお前

*

大正生まれのオレ達にや再建日本の大仕事政治、経済、教育とただがむしやりに三十年泣き笑いも出つくしてやっと振り向きや乱れ足

まだまだやらなきゃなあお前

*

大正生まれのオレ達は五十、六十のよい男

子供も今ではパパとなり可愛い孫も育つて

それでもまだまだ若造だやらねばならぬことがある

休んじやならぬぞなあお前

*

男なら(石田一松)

男なら男なら

敵に負けても

くよくよするな

妻や息子や娘や孫に

元の日本にして返せ

男ならやってみな

二十一世紀を目前にしてこれから更に進む高齢化社会の尖兵として、新しい生き方を平成の世代に引きつぐのも肝腎だ。

《註》「大正生まれ」作詞者は小林朗氏(神戸商大出)。

(菅沼 榮)



五五期

古稀の坂を越えて喜寿まで少し間がある私達の年代を何というのだろうか。

秋篠そぼ降る十一月一日正午、恒例の四谷「山宮」に集った同期の面々七名。首都圏在住三十二名中の七名だからいかにも淋しいが、欠席ハガキに目を通すと、健康上の理由による者四、五名にとどまらないのだから止むを得まい。

それでも乾杯が終るや談論風発とどまるところを知らず。私などが小さいいせいか、くちばしを差し挟む余地も見出せない。

それ程久しぶりの幼な馴染みは懐しいということ。話題は例によって昔の思い出。友の消息。軍隊時代の苦勞話等々。飲んだり食べたりする暇があったらどうかと思う程延々とつき、乏しいエネルギーを使い切つて、後でがつくりだったのではなからうか。

中で特筆(?)すべき若干を次に挙げよう。
数年前、伴侶に先立たれるという不幸に見舞われた資産家某君がいつの間にか佳人を見付けて、最近東欧の旅を共にして来た話、長い人生、単純なものではないにしても一同すなおに祝福を述べた。

某元閣下は退官後地域の世話役を種々こなしているが、最近ゲートボールの良さを発見したとか。というのよそのおばあちゃんと思えることができる、とは何とも可愛らしい。

元大企業技術幹部の某君はすっかり歴史、考古学にのめり込んでいるようで、これは右脳、左脳を平均的に刺激する点で最適と思われる。

更に話題は政財界の先行きに移り、偶々総選挙後のことでもあったが大方暗い見通しとなった。われわれの時代はまだいい。子供、孫の世代はどうなるだろう。アジアの中でも順位逆転が続く——とするとあの戦後高度成長期は白昼夢だったのか。いやいや、未来予測は複雑にファクターがからむからそんな単純なものではないよとの一部の反論もこころなしか弱々しかった。

尽きぬ話題に名残をおしみつ外へ出ると夜来の雨もほとんどあがり、めいめい再会を約して帰路についた。

ちなみに参加諸君の氏名次の通り。小沢忠樹、宗四朗、辻弘、法月重雄、日比光明、鷲巣英策。

(日比光明)

五六期

平成八年の関東地区同期会は、十月二十一日(月)午後五時半からの二時間、前年と同じ公務員共済のホテル東京で開かれた。

今回出席した者は、青木良文、大野日佐太、奥野進、清水逸郎、杉本正也、鈴木源一、鶴岡英彦、戸田栄、成田六郎、萩原達雄、萩原文平、松田一郎の十二名。

初めに、この二月に亡くなった杉山正義君と、これまでに亡くなった多くの級友のご冥福を祈って黙祷をささげた。

続いて、大野君の音頭で乾杯をしたが、そのとき彼から、昨日再選された原田昇左右代議士の今回の選挙のために、去る八日に焼津で行なわれた出陣式に参列したときの模様と写真の紹介があつて大いに盛り上った。

この年になると、何といつても健康は最大の関心事であるが、まず大野君から「がん」の恐ろしさとそれへの対策についていねいな話があり、続いて二三の者からそれに関連した発言があり、お互に健康にはよく注意しようということになった。

それから、部屋の中央に置かれた食物を好みにしたがって取り



ながら、三三五五集って思い思いの話に花が咲いた。

話がはずむうちに予定の二時間はすぐに過ぎてしまったので、最後はプロ写真家の松田君に記念写真を撮ってもらって終りになった。

来年もほぼ同じ頃に同じ場所で集ることになったが、開始の時刻を午後三時とし、会の時間は三時間とすることにして散会した。

(清水逸郎)

六一期

「卒業証書を今？」

平成8年9月20日 午後6時
於 銀座キャピタルホテル

この会は二年ごと4回目とのことである。静岡から特別参加の石垣、兼高、戸塚の3名も早々と到着した。出席は20名。

いつも世話人をしてくれる大石

写真

前列右から

伊藤 久

河合純四郎

兼高 英

石垣健一

佐野 剛

戸塚誠二

浜田茂明

諸田 実

黒川泰三

後列右から

花見 久

大石次男

天野 昭

安原徹治

清水照彦

山崎和夫

君島敏男

萩原将弘

大村富士男

西田駿之介

(写真外

鈴木 孝)



次男君の司会のもと萩原君の挨拶で始まり、戸塚君から静岡同期会の近況報告、糖尿原はオシャレな病氣とおっしゃる石垣ドクターの楽しい成人病予防の話があった。次いで山崎君の音頭で乾杯！

宴もたけなわ、なぜか戸塚君が大切に預かっていた一枚の卒業証書を渡すと言いつし、萩原君に拍手喝采の中に手渡しとこまががあった。間処校長名入りだ。途中で

多くの人が陸海軍の学校へ行き、我々は終戦の昭和20年に工場動員の中、全員4年で卒業したことになるが、俺も卒業証書を買っていないとの声が多く洩れた。神戸から転校して来たという鈴木君の間処校長の思い出話などもあった。

君島君の発声に合わせて、校歌「岳南健児一千の」を高唱、万感胸に去来。特急仕上げの記念集合写真を土産に散会した。

(西田駿之介)

六二・六三期

静岡グランドホテルで六〇名
平成八年六月八日、静岡グランドホテル中島屋で、六二・六三回同期会が開催された。

昨年東京の春光会館で開かれたのに続き、今年は静岡の前田富夫

君が世話人代表となつて大変盛大な会合となった。

幹事の皆さんの工夫で、会合の前に県立美術館と新装なった駿府城見学ツアーが企画され、翌日は藤枝CCのゴルフ会も催された。

また、恩師の北川巻平先生、三浦朝治先生、八十島実先生が参加され、大変含著のあるご挨拶を頂き、頭の下がる思いがした。

会はず尾謙司君の軽妙な司会で全員が近況報告を行ない、会場はあちこちで談笑の輪が拡がり、活気溢れる熟年達の集いであつた。

多分、根本保君のスピーチだつたと思うが、豊かな人生に必要なものは、「安定した心と、健康な身体、そして若干のお金」という言葉が耳に残った。今日参加した人はみなそれをカバーしている人達であらう。

しかし、当日配付された物故者名簿に、中学時代親しかった友人や、最近まで交際のあつた友達の名前を見つけて、つくづくと人生の無常を感じた。

二次会も幹事の肝入りで二十名が参加して盛会、駿河美人に囲まれて一層若返った。

慣例により来年は東京の番である。是非大勢の人に参加して頂きたい。
(伊東 守)

六四期

今年の同期会は、七月五日、JR田町駅前の「道灌かがり」で二十九名の参加者で幕を開けた。

世話人代表の名波倉四郎君の開会の挨拶に始まり、卒業以来何十年ぶりにブラジルより帰国した近藤博之君が乾杯の音頭をとり、今迄の人生の来し方を淡々と語った。久方振りに顔を見せた桜井富士男君、望月坦君。特に望月君は会社退職後、奥さんと二人、テレビや映画のエキストラ出演に熱中、仕事についての説明が実演以上で皆興味深く聞き入った。

盃を重ねている間に、いつか昔のニックネームで呼ぶようになり意気軒昂である。吉井駿亮君は奥さんの入院中の不便さを語りながら愛妻家の一端を披露。塚本光彦君は年金生活者の実態、醤油のデパートとスーパーの差、それも特売日との違いを数字で教示するなど、一同感心する。

毎回静岡より出席してくれる山下啓也君は国民学校連合会の運営の苦勞話をしたが、収益金の一部を障害者団体に献金出来るようになったとの事。世界中を旅している独身貴族の益頭尚文君はレバノンの思い出話。仲野実君は人生百

三十歳説の理由説明。竹内豊君は零細企業で働く人々の実態等を話す、これには驚きの声。

我等64期の名物男、渡辺素夫君の名司会でいつも会が一層盛り上がるのだが、本年も彼の音頭で応援歌、並びに校歌を斉唱し幕を閉じた。また栗田行雄君、今年も二科展入選、お目出度う。

出席者：浅井幹夫、岩本吉雄、神谷武男、佐野旭、長島健、松下一男、村上喜代二、望月康逸、八木綱三、柳田堯、山本和彦、加藤満。

●十月三日、薄曇、気温快適。東京・静岡合同で秋のゴルフ大会を伊豆大仁にて開催。回を重ねること二十四回となり、年々参加者が増え今回二十二名となった。

初参加は齋木浜雄君、大井川町より馳せ参じてくれた杉山京平君、小沢義郎君。優勝は鈴木高保君、ベストクロスもとり、両手に花。二位は塚本光彦君、世話人の石原良昭君はハンデの関係で残念ながら三位に終った。栄えあるブービー賞は渡辺宏一君、メーカーは杉山京平君。

パーティの席上稲森照男君があと五年、七十歳位迄お互い健康に氣をつけて、ゴルフを





楽しみたいと挨拶、皆拍手にて同意を表わす。岩本吉雄君の閉会の挨拶で終了、夕日に輝く伊豆の山々を背に来春の再会を約して別れた。

参加者：伊藤剛、塩津博義、漆畑茂、漆畑輝夫、川口実、時田博、永田進一、佐野旭、村上喜代二、神谷武男、渡辺素夫、山本和彦。

(野沢正憲)

六七期

卒業45周年同期会

ユニークな人材が揃った67期、卒業45周年の目玉は、野球部創部百年を記念した、作詩作曲すべて同期生という手作りの応援歌となりました。仕掛け人は関東同窓会でも名の知れた山川静夫、朝倉勇の両君です。

母校野球部の創部百年にあたるこの年に「百年史」を完成させようと、編集に心血を注いでいる法月郁雄君の頑張りを見捨ててはおけないと、乗り出したのが山川静夫君。「おい、やれよ」「やるか」「静岡弁の詩を書け、野球部応援歌だ」との注文に詩人朝倉勇君が受けて立つことになりました。

出来上がった三篇の詩は、静岡市で活躍する音楽家鈴木大八郎君が作曲、お膳立ては完成です。

山川君の司会での同期会は平成八年九月一四日、静岡市のもくせい会館で午後六時七分開会。ゲストは、恩師九人に川村同窓会長、四人の元・現野球部監督。それに七〇人の同期生でした。

用意された座談会は壇上に元監督の田口一男(昭和35年甲子園準優勝)、野島謙(昭和48年甲子園準優勝)、船川誠、現監督の八木

政道の四氏、それに野球部長だった北川巻平、大村正夫両先生。法月君の司会でテーマは「甲子園への道」。最近遠くなった道のりを如何に短縮するか、元監督、両先生の発言があり、八木現監督の発言には「頑張れよ」「頼むぞ」と会場からの声援が盛んに飛びましました。

さて庄巻は応援歌の披露。女性歌手が登場して出来上がった三曲を披露。

「静岡、静かに」は各行の頭一文を横に並べると「しずおかこうこう しずこうやきうぶーになる」という趣向の落ちついた曲。

「見たか きみ」は静岡野球部の伝統を説いたもの。

そしてもう一つの「行かざあ行かざあ甲子園」は、方言をたっぷり効かせた《いかざあ音頭》。

鈴木大八郎君の演奏、女性歌手の熱唱に、会場は最高潮に盛り上がりました。67期だけのものではなく、この応援歌、なんとか大勢にうたってもらいたいものです。

帰りのおみやげは、鈴木君が連続徹夜の無理をして短時間で作成してくれた三曲のカセットテープでした。

(光木 徹)

静岡・静岡高67期卒業45周年同期会



△野球部OB・歴代監督・部長▽
前列左から長谷川遊撃手、田口監督、北川部長、法月マネージャー。
後列左から野島監督、岩本外野手、船川監督、八木現監督。

回想・随感・近況など

静岡の万葉を歩く

(その十三)

51期 原崎 郁平

伊豆の伊東市の南方郊外、鎌田地区の「万葉の小径」に万葉歌碑が六つ建っている。

一、「春の野に すみれ採みにと

来しわれそ

野をなつかしみ 一夜寝にける」

山部赤人(巻八―一四二四)

二、「朝露に 咲きすさびたる

鴨頭草(つきくさ)の

日くるるなへに

消ぬべく思ほゆ」

(作者不詳)(巻十一―二二八)

三、「路の辺の 花師の花の

いもしろく

人みな知りぬ わが恋妻を」

人麻呂歌集(巻十一―二四八〇)

四、「手に取れば 袖さえにはふ

女郎花(おみなへし)

この白露に 散らまく惜しも」

(作者不詳)(巻十一―二一五)

五、「この雪の けのころときは

いざゆかな

山たちばなの 実のてるも見む」

大伴家持(巻十九―四二二六)

六、「夏草の 絶えぬ使いの

よどめれば

事しもあるごと 思いつるかも」

大伴坂上郎女(巻四―一六

四九)

《順路》この歌碑のある

ところへ行くにはJR伊東

駅からシャボテン公園行き

バスで八代田下車、「万葉の

小径」の標識を目当てに、

谷城田橋(やしるだばし)

を右に川沿いに上る。五〇

〇米先から始まり、約一〇

〇〇米つづく。

《花の名》一、すみれ。二、

つゆくさ。三、いちしとあ

るはひがんばな。四、おみ

なへし。五、山たちばなは

やぶこうじ。六、くす。

建立者は伊東市婦人連盟、揮毫

者は各碑で異なる。

伊東市は、詩人の木下至太郎の

出身地である。彼の代表的作品に

「むかしの仲間」がある。「むか

しの仲間も遠く去れば、また日ご

ろ顔あわせねば、知らぬ昔と変り

なきはかなさよ。春になれば草の

雨、三月桜、四月すかんぼの花の

くれなる。また五月には杜若(かきつばた)花とりどり人ちりちりの眺め窓(まど)の外の入目雲」私の少年時代にこの歌が国民歌謡としてラジオで放送され、ロずさんだことが思い出される。



一病息災

54期 庵原 悌次

鈴木猛君の死去を吊った頃から気付いていたのだが、便に血液が付着していたので、近所で泌尿器科を開業している平林一郎君の診療所へ相談に行った。診察の結果精密検査を受けた方がいいという

ことで、帝京大学病院への紹介状を書いてもらって一日検診を受けた。待合室の壁に「真黒な便は胃潰瘍、赤い便は痔、赤黒い便は大腸癌の疑いがある」と掲載されていたのを見て、これは大腸癌だないと薄々感じていた。

便が大腸内を蠕動して下る途中に患部を擦って進むので、その傷口の血痕が便に付着して便の表面に赤黒い糸を曳いたような痕跡を残したのだと思われた。

レントゲン写真を何枚も撮り、診断の結果、大腸にポリープがあるから切除した方がいいだろうというところになって入院した。

「鈴木君が大腸癌で亡くなったのを吊ったと思ったら、今度は自分の番か」と言うと、家内に「まだ癌と決ったわけじゃないから」と思められた。

二リットルもの緩下剤を飲み、灌腸で腸内を洗滌した後、内視鏡でポリープを見付けては摘み取っていった。

手術台の脇でモニターの画面が逐一経過を写し出しているのに、イボのような患部を一つ一つ摘み取っていく光景が見える。そのポリープの集団の奥に腫瘍の大きな固まりがあった。手術はポリープを刈り取ると、そこで終ってしま

ったので不審に思ったが、病室に帰ると家内が主治医に呼ばれた。廊下で何やら話していたが、帰って来ると家内が私に言った。「先生が腫瘍は進行性癌だから手術して切り取った方がいい」と。

手術するのは本館病棟でなければならぬので、病室の空くのを一日待って本館病棟に入院した。

大腸の構造は小腸を出ると盲腸から上行結腸を経て横行結腸・下行結腸と続いてS状結腸・直腸を通して肛門に至るのであるが、腫瘍はS状結腸の部分だった。

内視鏡では大腸の内壁の腫瘍しか見えなかったが、CTで見ると外側にも張り出していて危険だということ直ぐ手術をすることになった。

手術台で麻酔を打たれたら直ぐ意識を失い、気が付いたら既に手術は終って処置室に移され、ピニール状の開いの中に寝かされていた。下腹部がやたらと痛くて体の向きを変えることもままならない位であった。

一日経って病室に戻ったが、主治医から努めて歩行をするように言われたものの、起き上がろうにも何とも下腹部が痛くて起き上がれない。

臍から下へ二十センチ程下へ切

り開いたあとの縫目はあるが、大腸を十五センチ程切り取ったあとの部分は無論見えない。下腹部の横に流れる部分が痛むので多分腸を切り取った痛みだろう。

ベッドの端に綱を結び、引張って体を起こそうとしたが、この歳では腕力がなくてとても起き上がれない。痛みを堪えて体を横にしてベッドから足を床に下ろした。立ち上げれば歩行は左程困難ではなく、用も一人で足すことができた。

再入院してからは点滴だけで絶食を続けていたが、手術後三日程経ってから重湯になり、三分粥、五分粥、全粥と一日毎に固めの食事になり、一週間で常食が摂れるようになった。

その後二、三日して退院したのは初診から一か月程してからだった。それから一週間・一か月・半年と検診を受けているが、今のところ変わったこともなく、体調も手術前と殆んど変らなくなった。

歩くことは血行を良くするので一日一万歩を目標に二、三日は続けたが、いかにも大儀で今では五千歩位に減っている。食べ物には家で吟味した食物が主で外食は殆んどしないし、煙草も吸わない。酒も血液の循環を助ける程度にして

いる。

癌が転移していないので抗癌剤をはじめ薬は服用していない。七十五年生きたので生き永らえることへの執着はないが、不養生で長患いをし、不様な死に方はしたくないので、大腸癌の再発に注意して余生を過ごすつもりでいる。

これまで四十肩、五十腰の経験はあるが、病氣らしい病氣はしたことがないので自信過剰になっていたのかもしれない。こんなことがきっかけで注意深くなったのも一病息災がもたらす利益かも知れぬ。

今度の病氣も自分を見直すよい機会だと、むしろ感謝している。

「第二の人生」考

66期 小嶋 清司

此の歳になると帰(鬼)門から元の世界へ帰って行く友達がボツボツ出て来ていて、自然の摂理とはいふものの誠に寂しい思いがします。好むと好まざるとに拘らず此の世に生を享け、個々に与えられた使命と言うかテーマをどれ程の人が成し遂げて居るのでしょうか？

縁があつて東京都の中高年労働福祉推進委員を承り、地域の熟年層対象者から第二の人生に就いて

の考え等を伺っていますが、我々の年代はやはり「仕事をしたい」と気が済まない」が殆どで、自己の実現には程遠い実態のようであります。

フリーの身になって「己の人生は一体何だったんだろう」と思っても仲々頭に浮かばない。何かやろうとしても腰が上がりません。リタイアしたらノンビリするんだと言つて、自分のやりたい事すら思い浮かばないのであります。やりたい事をやる中で、周りの人に喜んで貰えれば満足感が得られ所謂「生き甲斐、やり甲斐」になる訳ですから、先ずやりたい事を見付ける必要がある訳です。

仕事をしていた時にはアレもしてみたい又こんな事も、と思った事がある筈です。そこで学生時代また青春時代にやっていた趣味、運動等を一度羅列して見て下さい。そして列記した項目を屋外、屋内また個人で出来るもの、仲間と一緒にやるもの、身体を使うもの、頭を使うものなどに分けてみるんです。

区分けが出来たら今迄その趣味なりスポーツの仲間の名前を付記して下さい。ここ迄来ると自分が仲間を必要とする人か、一人で楽しむパターンかが見えて来ると思

塩原 一九九六年 春

さみどりの風がそよぎ、大鷹が空を舞う。

しぶきを上げて岩魚が躍り、やしおつつじが溪流を彩る。

この美しい塩原の自然をおびやかすかのように、えもしれないものがやってくるという。

若い人たちが、つぎつぎに里をはなれ、

過疎化がしのびよる私たちの町、

温泉と酪農と米作りで生きてきたこの田舎町に、

巨大なものが、のっしのっしとやってくるという。

農産物が自由化されて、私たちの暮らしはどうなる。

産業の空洞化で、失業が増えているというのに、

国のおえら方は、銀行のしりぬぐいにやっきになっている。

曇りガラスをのぞくような頼りない日々の折に、

東京のどまん中にあるものを引っ張ってくるなんて、

ふつてわいたような話が飛び込んできた。

山女魚を串で焼きながら古老は語る。

「うますぎる話だけが、気をつけたほうがいいんじゃないやねえけ。」

蕨沼用水の清流を田に導きながら、農家の主婦はつぶやく。

「百姓ってのはさあ、いつもだまされてきたんべ。」

われにもすがりたいような思いでいる私たちの耳もとで、

あやしげなことを甘くささやくのは罪ではないのか。

います。嫌な事はやる必要がありませんが、努めてギャップを埋める様心掛けるチャレンジ精神がボケの防止にも繋がるのです。

一番 good なのは夢中になれるもの、そして継続出来るものなのですが、ベターなのはその事を人に教えられる事、そしてベストなのはそれによって収入が得られる事なのですが、仲間うまく行かないものです。趣味にしても、もう一度練習し直さなければならぬものもある筈です。

良く人の為になる事、喜んで戴ける事をするんだと言って実行されて実際に喜ばれている人がおりますが、我々が一番気をつけなければならぬのは「ヤツテやる」と言う考えは絶対控えて欲しく思います。ヤラせて戴く心が必要なのです。

会社関係の友人だけで無く、是非地域の人達との接触も大事にして欲しいものです。意外と言っては失礼ですがきっと素晴らしい新しい世界が開けて来る筈です。

未だ執務されている方も、是非自己実現の為紐解かれては如何でしょうか。健康管理、財産管理等に就いてご案内したい部分がございますが、誌面の関係で此の項は此の辺で終わらせて戴きます。

* * *

66期生は年一回静岡地区を中心定例会を開催しておりますが、関東地区では此の他毎月数月の第二金曜日に集まっています。何のテーマもありませんが、同好会として楽しい一時を過ごしております。

10月は青山に17名集まりガヤガヤ3時間程すぎ焼きを頂きながら、その後一部の人達は赤坂で、友達顔もあり驚くほどの廉価で二次会を楽しみました。上京の節は是非ご参加ください。お待ちしております。

参加者：石川(隆)、大塚、大坪(信)、大村、加藤(博)、杉本(幸)、曾根、田中、原野谷、牧田、馬越、増井、安池、安田、山下(裕)、湯浅、小嶋。

窓は夜露に濡れて：

68期 大川 庄治

いわずと知れた「北帰行」の一節である。私はこの歌を聞くたびにA氏のことを思い出す。

話は三十年程前にさかのぼる。当時、私は虎ノ門にある海運会社の外郭団体に出向していた。事務所は新聞にもよく出てくる故笹川良一氏の経営する船舶振興ビルの中にあった。このビルは右翼の総

本山みたいなもので、しょっちゅう羽織・袴姿の壮士風の輩が出入りしていた。

なかでも六十過ぎのひとときわ目立つ男がいた。頭はツルツル、胸板が厚くがっしりした体格の持主で、一見鍛山の僧兵のような面構えで、あたりを睥睨しながら歩いていた。時々エレベーターで乗り合わせたが、何か因縁をつけられるのではないかと内心ビクビクしていたものだ。

或る時恐る恐るビルの守衛に一体この御仁は何者かと尋ねてみたところ、日本空手道連盟の専務理事兼事務局長で空手道八段(和道流)のA氏だという。

それ以来、私がこのA氏に畏敬の念を持つようになったのは、多少分少年時代空手の真似事みたいなことをやっていたことがあったからであらう。

やや暫くたって、私は同じビル内にある日本空手道連盟事務局を訪問、門前払いを覚悟してA氏に面会を求め、是非空手の手ほどきをして貰いたい旨乞うた。奥の部屋に通されると、A氏は仁王立ちになって私の頭のテッペンから足の爪先まで舐めるように見渡して「よからう。タダで教えるから仲間を集めておけ」の一言が返って

狐の親子が村長みちを横切り、

めおとのキジが畑の中でえさをついばむ。

ヒヨドリやウグイスは庭先でさえずり、

シジュウカラは梢の上で春の歌を唱う。

この平和で静かな塩原の自然を、

おえら方の薄汚れた思惑で壊してしまつては、

困苦欠乏に耐えてこの土地を切り開いてきた、

代々のご先祖さまに申し訳がない。

ここ一番が思案のしどころ、

みんなの知恵と力を合わせて、

本当の町起こしになるように、

まじめ人間が泣かなくてすむように、

正直者が損をしなくてすむように、

とことんまで話を煮つめて、いい方法をあみださねばならぬ。

いまこそ、

塩原の町を導く、新しい政治の風が吹く時、

立ち上がれ、町を守る勇氣ある義人よ！

燃え上がれ、ふるさとを愛する聖なる炎よ！

一九九六年春の塩原は、

あらしの前の静かな春です。

一九九六年四月

塩原町大字横林 きこの森にて

増田 政雄 (64期)

きた。それから同じビル内を駆けずり回って、ボイラーマン、会計士、受付の女性、クラブの支配人などさまざまな職業の人を集め、ともかく週二回、勤務が終わってからビル内の社員食堂を俄か道場に仕立てて稽古することになった。

A 師範の指導は懇切丁寧で平和の二段、三段を中心に基本を徹底的にやらされた。私も師範からしよちゅう蹴飛ばされ、投げ飛ばされ、白い稽古着が朱に染まることかしばしばだった。

やがてロコミで外部からも初心者、有段者が次々と集まり盛況を極めるに至った。世話役は大体私で、全員が勢揃いすると事務室に A 師範を迎えに行く。師範が「道場」で稽古着に着替えるのを手伝う。食堂の固い P タイルの床の上に正座して師範に挨拶の号令をかける。稽古が終ると再び師範に挨拶する。そのあと師範の脱いだズボン、ステテコ、靴下、靴をうやうやしく棒げ持って、師範を事務室までお送りする。

さて、年も終りに近づき、一同忘年会をやるとういうことになった。飲む程に酔う程に、皆がぐんぐんに歌い始めた。すっかり御機嫌になった A 師範が「今日は君達に

満洲の馬賊の歌を教えてやるう」と、のたもつた。一同耳を澄まして聞いていると件の歌である。私は以前寮歌祭で聞いたことがあったので「どこかの寮歌じゃありませんか」と尋ねると、「今は拓殖大学（注）の寮歌になっている」と教えてくれた。

（注）実はこれは間違いで、43期の西沢純三氏にお伺いしたら同氏の母校の旧旅順工大の寮歌であった。

その後暫くたって、私は出向を解かれ元の会社に戻ったので A 師範に挨拶に出かけた。先方より「君には随分世話になった」といわれ、何のことかと思ったら、時々、日本空手道連盟が出状する案内状の宛名書きをさせられたので、そのことのお礼だと判った。私が船舶振興ビルを去ってからは、毎年日本空手道選手権大会の招待状が届き、ノコノコ武道館に出掛けてみると、入口で体育会系の詰め襟を着た学生が最敬礼をして招待席に案内する。

この A 師範について詳しいことは判らない。本人が忘年会の席上、自己紹介したところによると、九州は佐賀県出身で、旧制佐賀高時代から勉強そっちのけで空手ばかりに熱中し、京大で放校処分

を喰らい、東大に入り直したという。そのあとのことは多くを語らないが、多分満洲あたりを放浪したのでらう。

私はひょんなことから、日本一の空手の達人からほんのわずかの期間ではあったが、直接手ほどきを受けたことを今でも誇りに思っている。

六十の夢

――空白の時間に思うこと――

71期 石川 宏

あの聯隊跡の旧校舎（城内高校）に、昭和二十七年入学した我が諸兄諸姉も、今年めでたく還暦を迎えられた（る）ことだろう。

この還暦には定年という言葉がついてまわる。定年は七つの別れだという。会社、名刺・肩書き、給料、生きた情報、定期、家族、健康がそれで、私にはすべてが白紙還元されたように思える。

また定年とは、第三（最後）の卒業ラウンドに入ることで、人生を終えるラウンドⅡ死へ向かって進む旅の始まり、をも意味する。

定年までは「生きる」がキーワードだったが、これからは「死」がキーワードとなる。生きるためには心ならずのいろいろの制限があったが、死ぬことを思えば何で

もできる。まったく制限がないというのはいがたい。いいかえれば、このラウンド、定年は心まかせ・心のままの世界の始まり、でもあるといえよう。

いかに生きるべきか。その前にまず、諸先輩方の生き方「二十一世紀のシルバー像」について見てみたい。「シルバー（60〜74歳）の意識と行動調査」（平成八年一月、博報堂生活総合研究所）によれば、86年シルバーと96年シルバーの質的な違いを分析した結果、シルバー変化の方向性は、①自分志向、②悠々志向、③不老志向、④上級志向、⑤遊戯志向、の五つの潮流として整理されている。この五大潮流を見ると、実社会からやや距離を置いて優雅に生きる「シルバー貴族の誕生」がそこには見て取れる。

私はいかに生きるべきか。「新しい事を進んで受け入れる柔軟性や若い時の情熱を維持すること。そのためには常に自分自身をリニューアルしなくては行けない。」とビル・ゲイツはいう。山川（静夫）先輩を見習って、穏やかに、緩やかに生きていきたい。「何事も世は程良いとて生きてきたさてもふしぎなこの「中庸」噛めば噛むほど味がでる」ではじま

る李密の「中庸の歌」。このベールにある子思子の「ハーフアンドハーフの哲学」。私にはこの生き方こそが理想に思える。

いま、インターネットをはじめとするデジタル化の新しい潮流が世界的に話題を呼んでいる。インターネットは確実に仕事のやり方を変えていくだろう。たとえば、独立して自分の好きなことを好きなようにやるという人間がかなり増えてくる。インターネットはそういう人間にとっては、この上なく心強い「武器」となる。インターネットを使って仕事をすれば自分のベースに合わせたどんな仕事のやり方も可能だ。「自分好みの仕事」が自分のベースでできる。この夢の実現を目指して、私もいろいろとトライしてみたい。

この一年は、会社勤務での一期一会をじっくりと思い返す時間、ある意味でのクルダウン・充電の時ともいえる。独坐観念して、静かにこれからの考えてみたい。「こころよく我に働け仕事あれ、それを仕遂げて死なんとおもう」と啄木のように思う今日この頃である。

同期会に参加して

90期 見城 宗忠

私は今年の一月東京で行われた九〇期・関東地区の同期会に初めて出席し、二十二年ぶりに懐かしい面々と再会することができました。皆それぞれ相応に年を重ねた紳士・淑女(?)ぶりに最初は戸惑いましたが、ほどなく昔の面影と重なり、一気に静高時代へと時計が逆回転したようで、誠に楽しいひとときでした。

この同期会は、荒井千明氏のご尽力により開かれたのですが、あいさつの中で、参加を呼びかけても反応がない人が少なからずいたこと、中には誘いかけにけんもほろろの人もいた、との報告がありました。

司馬遼太郎の《受験の世》と題するエッセイに、次のような一節があります。

「世の中にはりっぱな(?)人がたくさんいる。学校が好きな人たちである。長じて成功者となり、老いて高校や大学時代の思い出をみごとに随筆にしたり、またしきりに同窓交歓して、その時代を天国のように幻想し、たがいにジグソー・パズルの破片をもちあい、幻想の青春を再構築しあったりす

る。」(『風塵抄』中央公論社)

勿論同期(窓)会がすべてこうだとは思いませんし、この考えに反撥を感じる方もおられることでしょう。しかし、それ故に背をそむけなくなる気持ちというものも私には理解できます。

田舎の中学から進学してきた私にとって静高生活は、カルチャーショックの連続でした。まず入学式で校長先生から「どんなきれいな所にもゴミはでるものだ、どうかゴミにならぬように……」といった趣旨の話を聞かされた時には、これは大変なところに来てしまったと思ったものです。そして回りのだれもがみな偉く見えてしまい、まったく身の置き所のない毎日でした。腹を割って話し合えるクラスメートもおらず、あげくには心身のバランスを崩してしまい、半年ほど病院通いを強いられたものです。

幸い二年に進級してから、ある自発的なサークルの仲間との出会いがひとつの転機となり、高校生活にやっとなしみをおぼえられるようになりました。しかし入学以来抱き続けていた周囲への違和感とはごまかすこともできず、とうとう卒業するまで拭い去ることはできませんでした。ですから私の場

合、楽しい思い出がたくさんある一方で、唄の文句ではありませんが、「泣いた日もある 恨んだことゝもある」ある高校時代に触れたくないという気持ちで、同期会への参加をためらって来たことは否めません。

私はその後大学卒業と同時に縁あって京都の南禅寺での生活を十年ほど送り、いまは東京郊外の小さな禅寺の住職をつとめています。静高時代にあの違和感を抱くことがなかったら、まったく別の道を歩んでいただろうと思っています。

人はいわゆる思春期と呼ばれるころ、漠然と「あなりたい、こう生きたい」と考えたことが、思いのほかその人の人生を左右してしまうのではないのでしょうか。不惑とは名ばかりでまだまだ迷い多いこの歳まできて、ようやくあの時代を背けるようになったかと、そんな自分を確かめたくて、参加した今回の同期会でありました。

最後にもし何らかのわだかまりをもって、同期会へのためらいを抱いている方がおられたら、次回には是非参加していただきたいと念じつつ、筆を擱きたいと存じます。

印高会ゴルフに優勝!

梅雨前のさわやかな一日、晴天に恵まれた六月七日(金)箱根カントリークラブで行われた第13回印高会のゴルフコンペで、はからずも優勝させていただきましてありがとうございます。

参加を重ねて皆さまとも顔見知りとなり、先輩・後輩の皆さま方と楽しくゴルフが出来る事が何よりの幸せで、いつまでもこの会が続く、毎回参加できますよう更に体力増強に励んでいきたいと思っています。

今回はなんと素晴らしい成績が出せるのではないかと思っていまして、午前のスコアが48と乱れましたので半ばあきらめておりましたが、パートナーの皆さんに励まされ、午後42と縮めることができて、トータルでは90とあまりはめられたスコアではありませんでしたが、ハンデが利いて優勝につながりました。

ドライブをビッグパーサーのチャタンに変えショットがよくなり、250ヤード飛ばようになったのも好成績につながったことと思っております。次回はハンデ12となりますが、更に練習を重ねていい成績を残したいと思えます。どうもありがとうございます。

(70期 村上雅一)



静岡だより

「静岡・静岡野球部百年史」刊行

法月 郁雄 (67期)

創部百年を迎えた野球部。平成八年の夏・秋季県大会とも、脆弱さを露呈して終った。苛酷なまでに自らを鍛え抜いたという雰囲気、全く伝わって来ない。

その立て直しには、現役・指導者を含めて、関係者の総力の結集が緊急の課題である。

十二月一日の記念式典を控えて『静岡・静岡野球部百年史』の完成の見通しがついた。編集面で特に留意した点は次の通りである。

●「百年の軌跡」と題して、通史として概観して頂く。

●百年を次の六期に分ける。

明治、大正、昭和前・中・後、そして平成期。

各年度毎に詳細な説明を加えてある。

●野球部の歴史にまつわる事柄は、別項として取り上げる。例えば、「静岡・静岡プロ野球人国記」

「静岡・静岡定期戦」その由来と

戦績」「校歌・応援歌」など。

●巻末に百年を年表風に記してみた。明治二十九年から昭和前期までは、各年の校友会誌記載の部員たちの述懐談から、特色を拾う。

昭和期から平成期の約五十年の各年度は、私見を入れながら編集を試みた。

●そのため可成りの長さになる。冗長になるのを防ぐ方策として、処々にコラム風な記事を挿入した。

例えば、「加熱する中等野球」「戦場に散った甲子園球児たち」など。

●記録は、大正七年の第一回県大会を「公式戦第一戦」と判断して、平成八年秋季県大会までの全

記録を年表に併記した。練習試合は煩雑を避けるため除外した。●32回の甲子園出場55試合は、別項として詳細に記録した。

▼十一月中旬発刊。

B5判四五〇ページ
価格一〇〇〇〇円

▼申し込み・問合せ等は左記へ
静岡市豊原町三一六
栗田産業㈱内

静岡・静岡野球部OB会事務局
電話 〇五四―二八二―〇六四四



「こゑ」

この欄は「もう一つの総会」です。
気軽に筆を執り、送ってください。

42 菊地 謙雄
旧姓、本多謙雄です。米寿を越した老軀、身心ともに不如意で、隠居して静かに蟄居生活を続けています。

時々思い出すのは大正十五年、第十二回甲子園大会に優勝した時の二塁手を務めた時のことです。あの当時のメンバーが何人現存しておられますか。

43 長戸 寛美
八十五歳。足首の関節炎のため杖の厄介になっているが、都心での会合に週2回は出るようにしている。無芸だから、あとは本を読むよりほか能がない。近頃は、長い物ばかりで、たとえば、源氏物語・八犬伝・ユリシイズ・失われた時を求めて・ヘロドトス歴史等。

43 望月 孟夫
情無い事に足腰その他衰えて、大の散歩も出来なくなつて家にとじこもつてテレビなど見ながらごろ寝ばかりして居ますが、特に病氣という事もなく何とか細々と生きて居ります。

49 石田大二郎
去る7月12日の関東同窓会総会

ここ数年病氣のため入退院をくり返し病床について居ります。本年かぎり脱会をお願いします。ご了承下さい。事情、同期の方々にもお伝え下さい。

50 峰田 静夫
幹事の皆様方色々ご苦労様です。平成五年六月に左肺下部三分の一を切除しましたが、その後元氣になり、スポーツクラブの運動も、海外旅行も出来るようになりました。皆様によろしく。

52 田中 貞司
初夏に喜寿を迎えましたが何時までも元氣で頑張ります。

52 松永 圭司
無事平穩に過しております。8年7月、北アの餓鬼岳・唐沢岳の山頂を踏みました。

53 小野 一夫
卒業してから六十年近くなりました。老人になった為昔の友が懐しくなりません。幹事さんは毎年御苦労様です。今後共どうかよろしくお願い申し上げます。

53 木宮 高彦

第49回 江の島会

56名が参集

真夏の太陽の陽射し遠ざかり、秋の色が密やかにしのびよるといふ境目の九月一日、永野清名誉会長(35期)が経営される恵比寿屋で岳南健児女五十六名が参加して開催された。

まず例年のとおり総会が奥沢徹氏(59期)の司会で始まった。

最初に川村春雄同窓会長(46期)から野球部創立百年を記念して野球部会誌を出版することになったことが報告された。また、同窓会報に、支部情報ばかりでなく個人情報も寄稿してほしい。それによってよりよい同窓会報ができると考えているのでご協力をいただきたい。学校創立百二十五年を七年後にひかえ、諸行事を計画しているのもこれも協力をお願いしたいと話された。

続いて北駿駿母校教頭(76期)から母校の現況について詳細な説明があった。

さらに平山桂氏(43期)から心暖まるご祝辞をいただいた。

その後月見里副会長(53期)を議長に議事に入り奥沢幹事から事業報告、会計報告があり、監査報告とともに一同これを承認した。

また、奥沢幹事から校歌を四番まで歌えるようにと歌詞を今年配布したので活用して欲しいと要望された。

さらに、来年は江の島会が区切りの五十回を迎えることになるので江の島会の由来をパンフレットにまとめたので、永野名誉会長をはじめ、関係の方々の協力をいただきたいと要請した。

来年は九月七日に開催の予定であるので、ぜひ同期の皆さんを一人でも多くさそって江の島会を盛り上げたいと考えているので協力をいただきたいと話された。

これにたいして永野名誉会長から「昭和二十四年頃永野、故村松直氏(42期)が湘南地方にも静岡中学の同窓生がいるようなので、懇親会を開こうというのが始まりであった。その後故戸川貞雄氏(27期、当時平塚市長)が加わりほんの数名で始まった。

その後会員数も増え、故李家孝氏(27期)を会長として発展を続けてきた。会が五十回になり、出席者も多くこんなに盛会になろうとは夢にも思わなかった」と話された。

なお、毎年佐伯正剛会長(51期)が配布される「江の島」関係の資料は、今年は趣をかえて、ワインに

関する詳細な資料であって、話題提供として十分なものであった。

続いて記念撮影、そして成岡英彦氏(67期)の指揮のもと、校歌を四番まで斉唱し、西沢純三氏(43期)の首領による乾杯で懇親会に入った。

同期同士あるいは数期にまたがったの歓談の輪があたりこちらでみられ、互いに打ち解けた親近感を抱いた和やかな光景が広がっていった。

戦後育ちの参加者が戦前に卒業された先輩の前で、静中時代の話を聞いているのは、江の島会ならではのものである。

宴も終りに近づき一応の散会となったが、江の島会はこれでは終わらない。

江の島弁天橋の屋台「いそみ」に集合、夏の終りの夕日が沈むのを見ながら二次会が夜遅くまで続いた。

そして来年の五十回の江の島会での再会を期待して、なごりを惜しみながら散会した。

(68期 雨宮明生)



には、体調を崩し病院通いをして

いたため、出席できず申しわけありません。衆院選挙には、私の長男岳志が静岡第一区から立候補しましたが、皆様には大変お世話になり、有難く御礼申しあげます。

53 三枝 正裕
昨年来腰痛に悩まされております。これも年の故で仕方がないものとあきらめています。

55 松井 保治
私事老化症状が色々出て来て会合・会食等は総べて失礼して居ります。会報を見て色々懐古して愉しんで居ります。

56 清水 逸郎
会報41号2頁に56期の幹事が清水逸郎・鈴木源一となっておりますが、本年から清水逸郎・萩原達雄となりましたので、よろしくお願い申し上げます。

58 鈴木 栄三
会報で同窓生の活躍を知り、うれしいことです。

60 黒田武之助
同窓会事務局の方々には、いつもながらお世話になり有難うございます。政府開発援助(ODA)の仕事でメキシコや中国のプロジェクトを手掛けており、日本に居るときが少なく皆さんに会う機会が無いのが残念です。六十九歳も

頑張っています。

60 斉木 学
新神戸電機会長から相談役となり暇な時間が多くなりました。どうい生活に切り変えて行くのかまよっています。よい生活方法があったら教えてください。身体は、柔道をやっていたおかげか大丈夫です。又同窓会でお会いしましょう。

60 新間 昌輝
会報41号で、61期相馬孝氏の「青葉が丘に思う」の記事、特に感銘深く拝読致しました。紙面の充実皆様のご活躍が偲ばれ、力強く感じました。有難うございました。

60 時田 正康
幹事の皆さんにはいつもお世話になり、感謝しております。小生気象庁と気象協会の五十年の勤めを今年終りました。その後も元気でおります。同窓会のますますの発展をお祈りいたします。

61 福田 英雄
直腸ガンで4月に入院し、7月半ば以降退院のメドが立っております。

61 高村 岳史
住所が変更しましたが引き続き関東同窓会会報を愛読致し度いので宜敷く御願ひ致します。会報は新住

所宛御送り下さい。小生、尚東京で仕事を続けており上京の機会も多い現状です。現職：税理士、東京税理士会々員、世田谷支部所属です。

住所：静岡市太田町42

ヴィラ・アルタ301号

66 安池 智策

平成八年五月三十一日付で東京都庭園美術館を退職しました。先輩の四十四期の鈴木進館長は、四月から名誉館長となられました。後輩の九十三期古屋まゆみ（旧姓藤岡）さんも同じ職場の（財）東京都歴史文化財団でがんばっております。

67 稲葉 昌弘

仕事の都合で総会には欠席が多く大変恐縮ですが、毎々のお世話に感謝しております。

67 朝倉 勇

山川静夫君にうながされて静岡野球部百年記念の応援歌の歌詞を書きました。さて曲がついて皆で歌ってもらえるかどうか。甲子園への応援の効果があるかどうか。法月郁雄君が作成の労作「静岡高野球部百年史」の巻末に収められることになりました。

68 秋山 和也

現職をお知らせします。

株式会社 和光堂薬局

東京都台東区東上野3-15-11
〇三—三八三二—〇〇六八

68 酒井 定子

5年間の山形生活を終えて今春東京へ帰って来ました。今後どうぞよろしく願います。

68 塚本 浩司

会社を定年退職しておよそ2年半。やりたい事がいっぱいあるのにちっとも進まない。残された時間は少ないのに……。ビジネスよりもむつかしい？

68 星野 敏郎

開封しないメール類の中にこの同窓会総会のお知らせを、後日発見。目がテンになりました。申し訳なし。毎年参加の記録もバツイチのていたらく……。これからはまた出直しさせて戴きますのでよろしく願います。末筆ながら幹事の皆様、ご苦労さまです。

70 遠藤 和夫

この二、三年会の方にも欠席しており、失礼しております。皆様お元気でしうか。何かと身辺忙しく、公私とも混乱いたしておりますが、今年の末迄にはすっきりして皆様と一緒に飲み、語りたいものです。

70 村松 勝治

同窓会のメンバーに、何十年の歳月を経てふとお世話になること

があります。深く感謝いたします。同窓会との絆は、いつまでも大切にしていきたいものだと感じております。

71 石川 宏

この六月末で、鶴博報堂を定年退職、目下整理と準備でけっこう忙しい毎日を送っています。

71 浦田 彰

同期生一同、今年でめでたく還暦。この頃は昔の仲間との語らいが何よりの健康法。来年こそはぜひとも、甲子園を肴に痛飲したいものです。異郷の地より心からの声援を送ります。

72 松島 正明

昨春退職し、一年間充電をして今年五月、自宅で開業しました。金属加工品関連の技術コンサルタント業を主務とする会社です。同窓会諸氏の御支援のほどよろしく願います。

73 西本 昇平

静岡に学んだティーンエイジャーの頃の思い出が薄れているわけでもないのに、早くも還暦が近づき、孫が生まれて「おじいちゃん」と呼ばれるようになってしまった。しかし、まだ現役の職業人であり、趣味も多いので、あと十年は元気に活動してゆくつもりだ。

73 深澤 靖男

関東支部役員の方々のご努力に敬意を表します。私共73期関東同期会は、日頃の連絡網がよろしく種々の催しがよく開催されており。しかしそれをまとめて文章にし、会報に投稿する仲間がいなことを少々さびしく感じています。今後とも宜しくご指導を！

74 近藤 豊實

毎度のことながら、総会開催について幹事の皆様方の御苦勞を思いますと頭が下がります。

84 田邊 哲

七年前、40歳からトライアスロンを始めその魅力にとりつかれて。います。やっていらつしやる方、興味をお持ちの方、是非ご連絡下さい。03・3846・3735

84 水越 伸昭

御無沙汰しております。会の運営の方々、御苦勞様です。今後もしよろしく願っています。次の機会を楽しみにしています。

84 柳沢 正芳

幹事の方へ、いつもありがとうございます。もっと年をとったら参加させていただきます。

85 高橋 成彰

幹事さんにはいつもご苦勞様です。

90 田辺 文子

昨年十二月に現住所に転居致しました。

ました。今年初めの90期の同期会は、荒井さんより連絡をいただき留守番電話に入っていました。その後連絡がとれず、出席できなくて残念に思っております。よろしくお伝え下さい。

274 船橋市田喜野井7-9-11



「会報」編集子よりお願い

〇毎号バラエティに富んだ原稿を寄せてくださる方々に、心から感謝申しあげます。

同窓会員の絆をより強くとの願いをこめて、さらにより充実した誌面になるよう、一層のご協力をお願いいたします。

〇原稿尊重を建て前としておりますが、加筆や訂正させていただきます場合もあります。その点ご了承ください。

〇提供の写真について、返却の必要があるかどうか書き添えていただければ幸いです。

〇原稿依頼や掲載広告について、候補と思われる方を事務局までお知らせくださいますようお願いいたします。

(U)

その後の同窓会活動

(平成8年6月～11月)

第13回同窓会ゴルフ会

6月7日(金)

箱根カントリー倶楽部

参加者:19名

優勝:村上雅一(70期)

2位:清水照彦(61期)

3位:近藤希賢(48期)

幹事会

6月20日(木)

新日本証券食堂 出席者:38名

・会報41号の発送業務ほか

役員会

7月9日(火) 出席者:17名

・総会の準備など

第22回総会

7月12日(金) 報告は別掲

同窓会合同役員会

10月26日(土)

静岡同窓会館

関東支部より大石会長出席

役員会

10月29日(火) 出席者:10名

・運営について協議、連絡など

平成8年度定時総会

11月9日(土)

メディアシティ 静岡

関東支部より月見里顧問・上杉

副会長出席

各期幹事一覽

幹事が変更の場合は事務局まで

お知らせください。特に幹事未定

の期(83・88・91・98・99・101)

は至急選出してご連絡を!

42...井出多米夫・岩波信平

43...今井志郎・西沢純三

44...高橋真一

45...鈴木弥門・田附敏三

46...西 静男・山本幹夫

47...杉山栄一

48...原崎進一

49...菅沼 栄・杉本久敬

50...梶原忠治

51...佐伯正剛

52...服部雅雄・広川 聡

53...奥野 孝・山菅章雄・月見

里得知郎

54...庵原梯次

55...相川富士雄・法月重雄

56...清水逸郎・萩原達雄

57...岩井平一郎・影島利邦

58...藤田 登

59...青木静男・奥沢 徹

60...上杉重吉・堤 崇・山本雅

之助

61...大石次男

62...63...木下景一

64...65...野沢正憲・渡辺素夫

66...田中俊男

67...朝比奈正三・梶原由三・成

岡英彦

68...高橋俊見・荒谷じつ子・大

川庄治・雨宮明生

69...小林泰三

70...味岡 宏・川端正良・関

哲男・中馬敏雄・宮本達治

71...児玉文男・後藤弘枝・海野

幸雄・篠原 直

72...桜井亮介・深田 均

73...杉山 光・中西英一

74...佐藤鐘司・藤原経史

75...後藤正義

76...酒井孝太郎・鈴木 浩

77...加藤重信・野方重人・三浦

位通・清水雅尚

78...鈴木藤男

79...上田尚亮

80...野崎幸彦・諸星勝保

81...鈴木素明・萩原英昭

82...杉本三郎・堀内淳司

83...榎原明生・田辺 哲

84...池田幸司・増井喜一郎

85...成岡和美

86...橋村芳一・平岩正史・薬科

名雄・沢井良輔

87...鳥巢 修

88...荒井千明・小林一郎

89...清水 篤

90...岡村幸彦・望月 朗

91...松野敦子 95...新村昌弘

92...奥田規之・細沢 優

93...藤森 尚 100...船橋 智

94...田代卓靖

事務局だより

同窓会合同役員会

一、総会:年一回

一、役員会:年四回(五回)

一、幹事会:年二回(三回)

一、会報発行:年二回

一、懇親ゴルフ会:年二回など

現在会員数三千三百名、会員相

互の親睦をはかり、同窓会の活

性化のため、積極的な参加と建設

的な提案(具体案)をお願いいた

します。

去る十月二十九日の役員会にお

ける諸協議の中で「総会の開催日

を、六月の第三金曜と決めると、

皆が予定しやすいのではないか」

「会報発行は五月(従来は六月)

と十二月にしては」等々が話し合

わされました。

●各期幹事各位の日ごろのご尽力

に感謝し、さらなるご協力をよろ

しく願います。

同期会を開催して、その報告

などとともに、最新の同期生名簿

をお送りいただければ幸いです。

◎平成8年度年会費(三千元)

を未納の方は、同封の振込用

紙でご納入のほど、お願いいた

します。

振込用紙は既納未納にかかわら
ず、会報(毎号)に同封しており
ますことご諒承ください。なお、「会費未納者への会報の
発送はいかなるものか」「会費の
自動引き落としを採用しては」等
等のご意見もありますが、現状で
は今まで通りで考えます。お力添えをよろしくお願い申し
あげます。●前41号で告示しましたが平成八
年度の年会費拠出者一覧は、次号
で一括掲載いたします。(会計年度は毎年4月1日に始ま
り、翌年3月31日に終る)

事務局への連絡は:

〒153 目黒区上目黒2-18-13

山中ビル タカラ歯科医院内

静岡・静岡同窓会

薬科名雄(87期)

(電)〇三三七九二二三五八〇

(午後2時～6時の間)



鈴 与 株 式 会 社

取締役社長 鈴 木 通 弘 (76期)

清 水 市 入 船 町 11 - 1
TEL 0543(54) 3 0 1 5 (秘書課)

東京支店 〒105 東京都港区芝公園1-2-12
TEL 03 (3432) 7 1 9 2

新日本証券

相 談 役 大 石 巖 (53期)

専務取締役 海 野 幸 雄 (71期)

本店/〒101 東京都千代田区神田駿河台3-11

☎03(3219)1111

建築コンサルタント・設計施工業務
建築に関する御相談は御気軽に……

株式会社 大 雄

取締役社長 奥 野 孝 (53期)

本社 東京都台東区東上野2-18-7 共同ビル10階
TEL 03-3834-5331 (代表)

建築設計・監理

齋 奥野建築設計事務所

取締役会長 奥 野 孝 (53期)

取締役社長 奥 野 進 (56期)

取締役副社長 奥 野 広 (58期)

本 社 東京都台東区寿2-5-12 加瀬ビル

Tel 03-3842-6831 (代表)

静岡事務所 静岡市安東2-8-14

Tel 054-246-9378

日本レーベル印刷齋

代表取締役 岩 井 平 一 郎 (57期)

本 社 静岡市国吉田3丁目1番1号

TEL 054(262) 1 1 1 1 (代)

東 京 中央区京橋1-1-6越前屋ビル8F

TEL 03(3272) 4 6 5 1 (代)

自動車・電機部品の自動塗装及びシルクスクリーン印刷

齋 勝山塗装工業所

代表取締役 奥 澤 徹 (59期)

本 社 横浜市瀬谷区橋戸3-25-6 〒246

Tel 045-301-5545

大 和 工 場 大和市深見3706-1 〒242

Tel 0462-62-0340 FAX 0462-62-0343

東松山工場 東松山市大字新郷88-47 〒355

Tel 0493-24-2511 FAX 0493-24-2513

株式会社 富 士 越 株式会社 富士越化成

代表取締役 野 澤 正 憲 (64期)

東京都渋谷区東2-14-9

TEL (3409) 3 3 4 2 (代)

TEL (3400) 9 5 4 1 (代)

内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科
人間ドック

熱 函 病 院

院 長 小 坂 博 (67期)

住所 熱海市春日町12-2

TEL 0557-83-3131

総合広告代理店

株式会社 ア ド プ ロ

代表取締役 朝比奈 正 三 (67期)

東京都千代田区内神田3-4-5 岡崎ビル3階

TEL 03-3254-2171 (代表)

☺ 昼2時より夜11時まで診療 ☺

タカラ歯科診療所

フ ラ シ ナ
代 表 藁 科 名 雄 (87期)

東横線 中目黒下車徒歩5分

TEL 0120-376480